

## 平成25年度のコメ作付けに向け町長に報告

広野町営農再開検討委員会が、11月6日、広野町役場で開かれました。

この委員会には、町認定農業者など約30人が出席し、町から実証田で試験栽培された米の全袋検査の結果などについて説明を受けました。

町では、24年度に町内39カ所の計約4ヘクタールの実証田で試験栽培したコメを全袋検査し、その結果、509袋全て基準値（1キロあたり100ベクレル）を下回ったことを報告。

また、全袋検査で一時、5袋が基準値を超えたが、もみすり機を洗浄した後の再検査では、基準値を大きく下回ったことを説明しました。

この結果を受けて、当委員会の芳賀委員長は、「平成25年産米の作付けについては、自粛するべきではない」とした意見をまとめ、町長に報告しました。



▲山田町長に要望書を手渡す芳賀会長と大和田副会長

## 息の合った力強い演技を披露



▲中学生全員によるソーラン節

広野中学校の広蜚祭が、10月27日、広野中学校体育館で開催されました。

「One for All, All for One ～一人一人が輝きを放って～」をスローガンに2年ぶりの開催となった広蜚祭。

広野中学校に通う31名が、県内外に避難している仲間たちとの絆を確かめながら精一杯練習の成果を発揮しました。

フィナーレに行われた全校生による広中ソーランは、息の合った力強い演技に会場は酔いしれました。

## みんなが主役 心ひとつに

広野小学校再開記念学習発表会が、10月20日、広野小学校体育館で開催されました。

各学年の児童が劇や合奏などを披露し、会場をわかれました。

プログラムの最後には、6年生による閉幕の言葉・全校生で校歌を歌いました。

閉幕の言葉の中で6年生の代表者は、「広野町でまた、学習発表会ができてうれしい」と喜びをかみしめていました。



▲小学生全員による合唱



▲帰還に向けた住民説明会の様子

町民の帰還に向けた住民説明会が、10月27日と28日の両日、広野町といわき市を会場に行われました。説明会には、両日合わせて約250人が出席。山田町長は「町の現状を確認し可能な方から町に戻り、復興に手を貸していただきたい」と町民のみなさんに呼びかけました。

説明会の中で、町は、一般住宅の除染が94%まで完了したことやインフラの復旧状況などについて説明しました。町民のみなさんが一日でも早く広野町に帰還できるよう、町は全力で取り組んでいきます。

## 東京電力会長が来庁

東京電力の下河辺会長は、11月8日、広野町役場を訪れて山田町長と面会し、来年1月の「福島復興本社」（仮称）などを盛り込んだ経営方針を説明しました。

下河辺会長は、「スピード感をもって賠償や除染などに全力で取り組む」と述べ、福島第一原子力発電所の廃炉や除染・賠償の迅速化に向けた体制を強化するため、来年1月に設置を予定している「福島復興本社」（仮称）について説明。

それを受けて山田町長は、「広野町は、福島第一原子力発電所を収束させるため、町民が不安を持ちながらも協力している。我々の生活支援を最後までやっていただきたい」と述べました。



▲山田町長に今後の経営方針を説明する東京電力の下河辺会長



がれき置き場を視察する長浜環境大臣

## 長浜環境大臣に要望書を提出

長浜環境大臣は、11月11日、広野町を訪れ、町内のがれき置き場を視察した後、山田町長と会談しました。長浜環境大臣は、「一日も早く復旧する努力を続けているが、時間がかかっていることをお詫び申し上げます」と述べました。

これに対し、山田町長は、「政府も我々と一緒になって、町民に説明し、町民の安全安心を担保していただきたい。町民の帰還に向けてスピード感ある対応をお願いしたい」と述べ、減容化施設の早期設置と除染などに対する財政措置を求める要望書を提出しました。